

参加費
無料
定員250名

沖縄鉄軌道の よりよい計画づくりに向けて

～駅を中心とした快適で利便性の高い持続するまちづくり～

日時 2017. 1/25(水) 14:00 ~ 17:15
(開場 13:30)

会場 沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ ニライカナイの間
〒900-0016 沖縄県那覇市前島3丁目25-1

※参加希望者が多数の場合は入場できないこともありますので、あらかじめご了承ください。



鉄軌道の導入には、多くの皆さまに利用してもらう環境づくりが重要です。そこで、利用しやすい環境づくりに向け自治体と民間が連携してどのようなまちづくりを行っているのか、また、利用促進に向けてどのような取組がなされているのかについて有識者によるシンポジウムを開催します。

基調講演

鉄軌道導入とまちづくり

一般財団法人運輸総合研究所主席研究員
伊東 誠



維持困難にあえぐ地方鉄道と
利用者数の回復策

芝浦工業大学工学部土木工学科教授
岩倉 成志



パネルディスカッション

駅を中心とした快適で利便性の高い持続するまちづくり

◆パネルディスカッションの前半では、下記の取組の事例紹介も行います。

『高齢社会における持続可能なまちづくり～鉄道駅周辺のまちづくりの取組事例～』

横浜市建築局住宅部住宅再生課 課長 大友 直樹

『鉄道事業とまちづくり～東急電鉄の事例から～』

東京急行電鉄(株) 鉄道事業本部運転車両部計画課 課長 関 聡史

コーディネーター 伊東 誠 一般財団法人運輸総合研究所主席研究員

パネリスト 岩倉 成志 芝浦工業大学工学部土木工学科教授

大友 直樹 横浜市建築局住宅部住宅再生課 課長

関 聡史 東京急行電鉄(株) 鉄道事業本部運転車両部計画課 課長

高橋 正大 沖縄鉄軌道県民会議参加者

講演者・パネリスト紹介



いとうまこと
伊東 誠

一般財団法人運輸総合研究所
主席研究員

東京工業大学卒業。

(財)運輸経済研究センター(現運輸総合研究所)入社。調査役、主任調査役、主任研究員、企画室長をつとめ、常務理事の後、2007年から現職。

鉄道政策の提案及び、需要予測・効果分析手法、まちづくりとの連携方法等政策の基礎となる調査研究を行うことに併せ、つくばエクスプレス、札幌・福岡・横浜市地下鉄等各地の都市鉄道路線の事業化に向けた調査を実施。著書に、「トランジットモールの計画(共著)1988年(技報堂)」、「交通整備制度(共著)1990年(土木学会)」、「魅力ある観光地と交通(編著)1998年(技報堂)」、「鉄道の百科事典(共著)2012年(丸善)」がある。



いわくらせいじ
岩倉 成志

芝浦工業大学
工学部 土木工学科 教授

東京理科大学大学院修了。

1989年社会システム株式会社入社。1990年東京工業大学工学部土木工学科助手。1994年(財)運輸政策研究機構調査役、1999年芝浦工業大学講師、2001年同大助教授、2004年同大教授、現在に至る。

2010年度から、内閣府沖縄鉄軌道等導入可能性検討調査委員。2014年国土交通省地域鉄道のあり方に関する検討会座長。2011年度から、国土交通省交通政策審議会委員として、整備新幹線計画、東京圏都市鉄道計画を策定。著書に、「鉄道の百科事典(共著)2012年(丸善)」、「自律型対話プログラムの開発と実践(共著)2012年(ナカニシヤ出版)」がある。



おおとも なおき
大友 直樹

横浜市
建築局 住宅部 住宅再生課 課長

東京理科大学工学部建築学科卒業。東京工業大学大学院情報理工学研究科(現環境・社会理工学院 建築学系)卒業。1999年に入庁後、国土交通省に出向し建築基準法関連法案の施行、運用に関わり、2006年以降、建築物の耐震化事業の他、団地や郊外住宅地の再生など、まちづくりに関する施策の企画立案などに従事。2014年から建築局住宅再生課長。

東急電鉄及び相模鉄道とまちづくりに関する包括協定を締結し、鉄道駅周辺をモデルケースとした持続可能な住宅地モデルプロジェクトに従事。



せき さとし
関 聡史

東京急行電鉄株式会社
鉄道事業本部 運転車両部 計画課 課長

東京都立大学工学部土木工学科卒業。

1996年東京急行電鉄株式会社入社。鉄道事業本部工務部、事業戦略部を経て、2010年、事業戦略部企画課課長。2015年より現職。

入社後20年間鉄道事業本部に在籍。鉄道建設改良工事計画、駅周辺基盤整備計画行政協議、東横線地下化工事設計・現場監理、鉄道総括管理、混雑遅延対策、中長期計画を経て、現在は運転計画を担当。技術士(建設部門)。



たかはし しょうた
高橋 正大

沖縄鉄軌道県民会議参加者
名城大学 学生部 学生課 勤務

法政大学キャリアデザイン学部卒業(法政大学応援団OB)。

2015年3月まで、JALプライベートリゾートオクマ(国頭村)等、沖縄県内外でホテルマン(観光業)として勤務。同年4月より、公立大学法人名城大学に専任職員として入職。

東京で10年近く鉄軌道のある社会と本県において鉄軌道のない車社会の両方を経験。また、県内主要産業である観光業での勤務経験も活かし、沖縄鉄軌道県民会議のメンバーとして鉄軌道計画案づくりに参画。